

科目名	ソーシャルワーク実習（鈴木勲）						
	【社会福祉士必修】						
授業形態	実習	学年	2年	開講時期	通年	単位数	4単位
担当教員	鈴木 勲						

内容および計画	<p>ソーシャルワーク実習は、社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な社会福祉現場での実習であり、本学では23日間以上、かつ180時間以上の実習時間を設定している。実習をとおして、社会福祉士として仕事をするうえで必要な専門知識及び専門技術、関連知識の内容について、理解を深めることを目的としている。そのため、本科目では、ソーシャルワーク実習で必要となる相談援助に係わる知識と技術について、現場実習前の事前学習、現場実習中の巡回指導等、現場実習後の事後学習も行う。</p>
1	オリエンテーション ソーシャルワーク実習の意義について
2	実習先及び対象者理解 1
3	実習先及び対象者理解 2
4	実習先及び対象者理解 3
5	個別支援計画の意義について
6	個別支援計画の作成
7	社会福祉実践における記録の意義について
8	実習記録ノートの理解 1
9	実習記録ノートの理解 2
10	実習における実習計画書の目的
11	実習計画書の作成 1
12	実習計画書の作成 2
13	実習計画書の作成 3
14	実習計画書に関する実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者の協議
15	ソーシャルワーク実習に向けての最終確認
16	実習巡回指導 1
17	実習巡回指導 2
18	実習巡回指導 3
19	実習巡回指導 4
20	実習巡回指導 5
21	ソーシャルワーク実習を終えて
22	ソーシャルワーク実習の振り返り 1
23	ソーシャルワーク実習の振り返り 2
24	ソーシャルワーク実習の振り返り 3
25	実習報告書の作成 1
26	実習報告書の作成 2
27	実習報告書の作成 3
28	実習報告書の作成 4
29	実習報告会の実施
30	実習報告会をふまえての実習に関する自己評価とまとめ

教科書	特にテキストの指定はしない。必要な資料は授業時に配布する。
-----	-------------------------------

参考書	その都度紹介する。
-----	-----------

成績評価	評価方法	割合
	出席状況・受講態度等	20%
	発表	10%
	課題・レポート・報告書等	50%
	グループ学習	20%
実習をとおして、実践的な援助技術を体得し、実り多い実習とするためにも、事前、事後の学びも大切にすること。		

学習到達目標	1.相談援助実習の意義を理解する。2.相談援助実践を行う上で必要な知識及び技術について具体的かつ実際に理解を深める。3.社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、課題把握能力等、総合的に対応できる力をつける。
先修条件	ソーシャルワーク実習指導、社会福祉概論、ソーシャルワーク演習、社会保障論、児童家庭福祉、障がい者福祉論、高齢者福祉論
その他	事前、事後の出席回数が不足していたり、学習の状況が不十分な場合には、実習委員会の判断により、実習の中止や単位認定ができないこともある。なお、本科目は、ソーシャルワーク実習指導と同時に履修する必要がある。